

令和2年度 苫小牧市立清水小学校グランドデザイン

清水小学校の教育目標

『未来を創造する清水の子の育成』

- ◎学びを 広げる子
- ◎思いやり あふれる子
- ◎たくましさ みなぎる子

「あたま」「こころ」「からだ」

北海道教育の目指す姿

〔基本理念〕

自立

- 自然豊かな北の大地で、世界を見つめ、自立の精神にあふれ、自らの夢に挑戦し、実現していく人を育む
- 共生
- ふるさとへの誇りと愛着を持ち、これからの社会に貢献し、共に支え合う人を育む

社会・教育界の動向

- 少子高齢化、グローバル化、情報化などによる急激な社会の変化
- 主体的・対話的で深い学び
- 学校の組織力
- 社会に開かれた教育課程の編成・実施
- 働き方改革

胆振管内教育推進の重点

- 「オール胆振で教育効果の高い学校づくりを目指して」
- 重点1 学力・体力の向上
 - 重点2 いじめ・不登校の解消
 - 重点3 望ましい生活習慣の定着
 - 重点4 働き方改革の推進

「あたま」—他者と関わり合いながら、学びを深め、広げよう

- ・発表・説明・話し合い → 授業で説明・発表する場の工夫 90%以上
- ・読書大好き 清水の子 → 学校図書館 貸出数 10000冊

苫小牧市教育大綱 (2019~2022年度)

〔教育理念〕

- 未来の社会をつくる人づくり
- 「教育の目的は人づくりであり、今日の教育が子どもたちの未来をつくり、未来の社会をつくる」という教育の重大な使命を自覚し、教育の振興と発展に向けて取り組む。

〔教育推進の指標〕

- 未知なるものに果敢に挑戦する自立精神あふれ、連帯と共生の豊かな心と活力にあふれる人を育てる (自立・連帯・共生)

〔基本方針〕

- 一人一人のニーズに応じた確かな学力を はぐくむ教育活動の充実
- 豊かな人間性と健康な体の育成
- 学校・家庭・地域社会が連携した信頼される学校づくりの推進
- 家庭・地域で子供を育てる環境づくりの推進
- 郷土の良さを生かした潤いある生涯学習の推進

「こころ」—互いを認め合い、違いを尊重し合いながら、

自己肯定感を高めよう

- ・縦割り活動、異学年交流の充実 → 各学期3回以上・年間 10回以上
- ・考え、伝え合い、認め合う道徳の授業作り → 道徳の時間に考えたことを普段の生活に生かす

児童の実態

- 全体的に明るく活発で、休み時間には進んで運動したり屋外で元気に遊んだりしている児童が非常に多い。
- 自分から進んで挨拶をしたり、お互いに助け合いながら学校生活を送ろうとしたりする児童が増えてきている。
- 学習については、中程度であり、基礎的な学習事項の定着や既習事項の活用が課題である。

「からだ」—体を動かす楽しさを実感しながら、

体力・運動能力を向上させよう

- ・新体力テスト 記録アップ → 2回目の種目も含めて 全国平均 50%以上

今年度の重点

【あたま】

- 他者と関わり合う中で、コミュニケーション能力を身につけ、学びを深め、広げる子ども
- 発表・説明・話し合い 思考力・判断力・表現力
- 毎日しよう 家庭学習 ・学年×10分以上+10分 家でも読もう 読書大好き 清水の子 ・10分以上
- ・学習規律の徹底 (清水小スタンダード)
- ・「授業改善に向けた共通取組事項」の実践
- ・小中の学習スタンダードの整備
- ・新学習指導要領全面实施 → 教育課程の整備

【こころ】

- 自己肯定感を高め、互いを認め合い、違いを尊重し合う子ども
- あいさつ・いじめゼロ・思いやり・縦割り活動、異学年交流の充実
- ・一人一人が考え、伝え合い、認め合う道徳の授業 公開研究会の開催
- ・人間的なふれあいによる教師と子どもの信頼関係の構築、積極的な生徒指導の推進

【特別支援教育】

- ・個の課題に応じたきめ細かな支援 (個別の各種計画等の活用の推進)
- ・校内支援組織の充実
- ・インクルーシブ教育システムの理念の共有

【からだ】

- 体を動かす楽しさ、健康安全の必要性を実感する子ども
- 体力・運動能力の向上
- ・日常的な運動機会の設定、なわとび、命を守る指導、アウトメディアの推進

【地域・保護者との連携】

- ・コミュニティー・スクールの推進
- ・積極的な情報発信、課題の共有、協働
- 【小中連携】
- ・小中共通の取組や実践の推進

~今まで以上に「行きたい学校」づくり~ 人間力の向上を通して

基 層

- 教職員の人間性や品性、感性の陶冶
- 組織体としての学校経営・運営の充実
- 教職員の教育公務員としての自覚
- 国際化・情報化・少子高齢化に対応する教育
- 【不 易】
- 【流行への対応】